

(2) 平成 24 年度コース入試の理念と内容

① 入試の理想像の設定

資源工学，物質材料科学，システム工学，環境学の専門分野に立脚した国境を超えたグローバルな視野を持つ博士人材育成をめざす本プログラムにおいては，研究活動のための専門分野の基礎的素養は勿論のこと語学能力や表現能力，コミュニケーション能力を有する学生を選別することがコース入試の目標となる。そこで，学府入学からコース入試まで半年の間に，学府の全学生に対して十分に本プログラムの目的や概要を十分に周知することにより，優秀で意欲的な学生の応募を促すのみならず，本プログラムが将来の社会に貢献するエリート養成を目指したものであるとの認識を全学生の中に醸成することが望ましい。またコース入試の応募者に対しては，応募，試験勉強，試験における面接など一連の体験を通じて，強い責任感と自覚を持たせることが望まれる。

② 平成 24 年度の実施内容

本来のコース入試は各年度の 10 月に実施すべきところであるが，本プログラムの採択決定が 2012 年 10 月であったため，暫定的に表 2-2 に示すスケジュールにて学生への周知活動を行い，コース入試を 11 月 17 日に実施した(付録 19, 20)。コース入試では表 2-3 に示す通り，専門科目，英語小論文の筆記に加え合同面接を実施している。加えて，応募書類として提出された TOIEC スコア，学部成績を併せ適切な重みを設定した上で総合評価を行った。その結果，表 2-4 に示す通り，応募者 8 人に対して 6 名を合格と判定した。

表 2-2. コース入試実施の流れ

年月日	内 容
2012 年 10 月 23 日	学生説明会(修士課程 1 年生対象)
2012 年 10 月 31 日	総合理工学府 3 専攻 入コース希望届 提出期限
2012 年 11 月 05 日	地球資源システム工学専攻 入コース希望届 提出期限
2012 年 11 月 07 日	入試対象者に対する説明会 入試対象者の指導教員に対する説明会
2012 年 11 月 12 日	コース入試受験の出願書類提出期限
2012 年 11 月 17 日	コース入試
2012 年 11 月 20 日	コース入試合格者査定会議
2012 年 11 月 21 日	コース入試合格者発表

表 2-3. コース入試の評価項目

区分	内 容
専門科目	専門分野 2 科目
英語小論文	4 つのテーマから 1 つを選び 500 語程度で自分の考えを述べる
面接	学府毎に受験者全員を集めて英語にて合同面接を実施
TOIEC スコア	
学部成績	

表 2-4. 受験者数および合格者数

学府	専攻	応募者数	受験者数	合格者数
総合 理工 学府	物質理工学	1	1	0
	量子プロセス理工学	3	3	3
	環境エネルギー工学	1	1	1
工学府	地球資源システム工学	3	2	2
合 計		8	7	6

③ 今後に向けての問題点の整理

2013 年度は当初計画の通り 10 月のコース入学となるため、コース入試の実施期間は 2012 年度に比べ大幅に前倒しとなる。4 月に入学する修士課程 1 年生に対して十分に本プログラムへの周知を行うのみならず、コース入試の内容を早い時期に公開しその準備を促すことが必要となる。

また、留学生に関しては 10 月の学府入学と入コースが同期するため、その選別方法については日本人学生とは全く異なる枠組みを準備する必要がある。スケジュールの遅れなく、海外連携先との協力体制のあり方や入試の実施方法等について検討し、逐次実行していく予定である。

(3) 平成 24 年度の教育理念、内容および実施状況

本プログラムがスタートした直後に、総合理工学部と工学部に新コース「グリーンアジア国際戦略コース」設置を本学に申請し、学務委員会において認められた(2012 年 11 月 1 日)。本プログラムは本来修士・博士一貫プログラムであるが、博士研究開始資格認定審査(QE)に合格した者に対しては修士の学位を与えることとした。コース修了の要件および QE 合格の要件を以下のように定めた。

<修了要件>

博士課程に 5 年以上在学し、下記に掲げる単位を含む 77 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

1. 実践英語科目 4 単位
2. 実践産業科目 4 単位
3. インターンシップ科目 5 単位
4. 国際演習科目 16 単位
5. 研究科目 18 単位
6. 社会・環境・経済システム学科目から 12 単位
7. 主専門・拡張専門科目から 18 単位

<博士論文研究基礎力審査>

本コースの履修にあたっては上記の修了要件を満たすほか、本コースの修士課程として取り扱うものとする博士課程の前期の課程に 2 年以上在学し、下記に掲げる単位を含む 40 単位以上を取得し、かつ二年次に行う博士論文研究基礎力審査(大学院通則第 27 条の 2 各号に掲げる試験及び審査をいう)に合格すること。